

第2錦タワーの概要

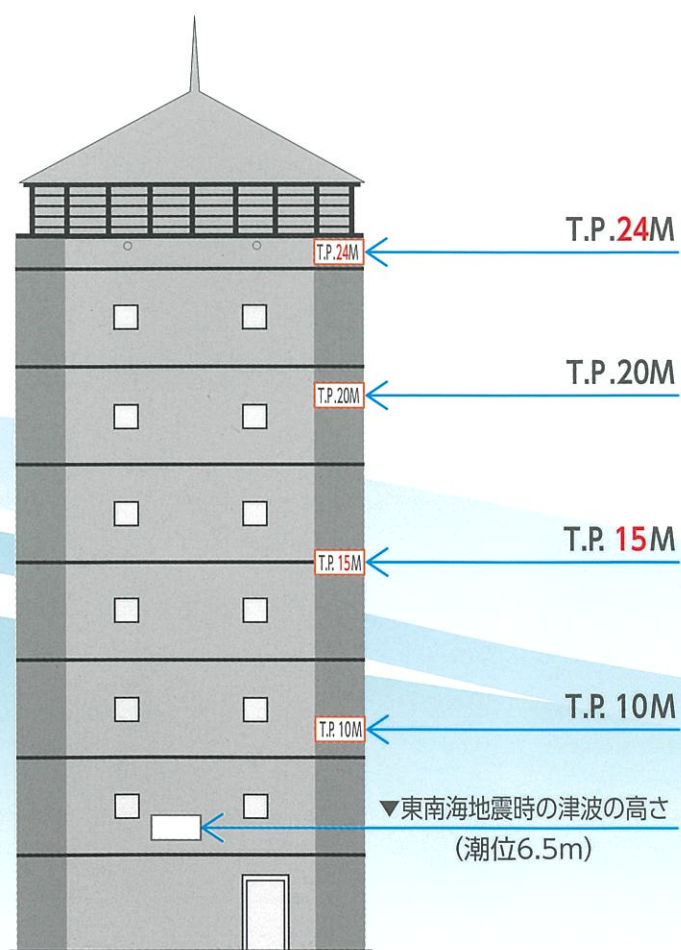
この第2錦タワーは、平成10年度に建設した錦タワーに引き続き、第2の津波避難塔として、地震発生後から数分後に到達するとされる津波に対し、地形的に避難が困難とされる海岸部に近い人口密集地域の住民や隣接する魚市場などで仕事をされている方々の人命救助を図る必要性から建設をいたしました。

東北地方太平洋沖地震により発生した巨大津波を教訓とし、国の機関である中央防災会議が発表した、南海トラフを震源とする巨大地震による新たな津波浸水想定に対処するため、海拔20m以上の部分を避難階として、最上階では海拔23.8mの高さとなっており、周辺住民を中心に500人程度が避難できるスペースを確保しています。

基礎部分は高い支持力性能を有する先端に羽根が付いた鋼管杭を使用し、タワー本体と一体化して施工することにより、津波による転倒、引抜きから耐えられる構造となっています。建物本体の構造も大地震及び大地震後に発生が予測される津波、また津波による浮遊船舶の衝突などから、建物の機能を保持し人命の安全を確保できるように設計された強固なものとなっています。また、敷地内には40m³の耐震性貯水槽が設置されており、家屋が密集している当地域の火災発生時におきましても消火活動の拠点となるべく機能を備えています。

利用形態は、災害時の避難所はもとより、平時は町民の憩いの場として、また非常電源用発電機をはじめ防災資器材の保管備蓄のほか、1階が消防倉庫、2階は地区住民の集会室となっています。

■錦タワーの断面図



所在地	三重県度会郡大紀町錦915-9
建築面積	79.84 m ²
各階概要	1階 避難口(3ヶ所) 消防倉庫 2階 台風時の集会室 6階 津波時の集会室 7階 津波時の集会室 屋上 避難所スペース(展望所) 総面積 634.53 m ²
収容可能人員	約500名
構造	鉄筋コンクリート造 一部 鉄骨造
事業期間	平成24年度
設計監理	a+s 建築設計事務所
施工	建築・外構工事 株式会社 谷口組

津波災害から生命を守る“安心”の塔

第2錦タワー

Second Nishiki tower



三重県大紀町